

## 18 パイン 『大英帝国の服装』

**Pyne, William Henry. The costume of Great Britain.** London, for William Miller, 1804.  
60 plates (copper. hand-col.) 37.2 × 26.4cm <383. 133-P>

Hiler p. 728    Colas 2447-48    Lipp. 985

本書の素描、銅版画、解説のすべてを担当した著者 W. H. パイン（別名、ハードキャスル Ephraim Hardcastle 1769—1843）は、イギリスの風景・風俗画家で、特にぼかし画法による独特の水彩画技術は、完璧に近いといわれる一方、後年は、作家としても活躍し、主に画家の評伝などに才筆をふるった。彼はこうした才能を生かして、本書の外にも同様の主題で優れた多くの作品を生んだが、精緻で人間味あるれた素描と適切な解説は高い評価を得ている。本書は、ジョージ 3 世時代、すなわち18世紀後半の大ブリテン島における様々な職業に従事する人々の服装を描いた60枚から成るアクアティント版の手彩色銅版画集で、貴族、司教、市長、軍人、掃除夫、ミルク売り、旅芸人など、当時のイギリスのあらゆる階層にわたって極めて多様性に富んだ選択がなされており、民衆服の資料としても貴重視されている。

各図版の主題に応じて、その歴史的背景と概要を述べた簡潔な解説が付されているので、風俗史上の好個の資料であるばかりか、版画集としての高雅さをも保っている。こうした服飾風俗版画は、最初は主に未知の異邦人を対象に、それらの人々の生活、風俗、習慣などに関する情報を異国情緒へのあこがれをこめて描いたものであった。後になってそれらと比較対照する意味で自国のものも取り上げ、軽いエッセイ風の解説を付けた絵入り読物、または一種の画集や絵本として、当時の人々の間に広く愛好された。次に述べる『イギリス人の服飾風俗図鑑』もパインの作品を基に描写された典型的一例であり、この際あわせて紹介する。William Alexander 著 Picturesque representation of the dress and manners of the English. London, for J. Murray, 1814. <383. 133-A> であり、Hiler の書誌によれば、著者はおそらく W. アレグザンダー (1767-1816) であろうと推定される。彼は当時一流の素描画家であり、優れた版画家である一方、大英博物館の版画・素描室の最初の学芸員として活躍した。ほぼ同じ時期にオーストリア人、中国人、ロシア人、トルコ人 (81) の一連の服飾風俗図鑑をロンドンのマックレアン社と J. マーリ社から出版している。この『イギリス人の服飾風俗図鑑』は、解説を伴ったフォリオ判の優れた服飾風俗図鑑となっている。収録された50枚の図版の半数は、前記のパインの図版と解説を模写したもので、当時のあらゆる階層、職業を収め、それぞれに風俗的見地から適切な解説が付されている。背景の風土にも当時の生活様式が伺える。(内野)



Published by William Miller, Albemarle Street, London, W. 1.

178

7 図 紋章官 パイン作 1804年 →18